



# 宇宙

Vol.43

●題字は深町正喜氏



## 理事長メッセージ 「易別離、難再会」

■カンボジア・アンコール小児病院 10周年記念式典に参加して  
第10回天領日田ひなまつり健康マラソン大会  
ストリームデイケア 100歳バースデイ

■GONGOVA2009 報告

■Seiryō Topics

聖陵ストリームイベントランチ  
健康教室を開催しました

■日田漫歩 ②⑨

日に日に新た



### 「易別離、難再会」

10年前、最初の患者は何の病気だったのか憶えていない。自分はアメリカの若い女医さん



(マリーン)と日野直子と三人のチームで診療にあたった。2～3人診た後で、意識混濁の女の子(8歳)が運ばれてきた。3日かかりで山を超えて来た。高熱が7日以上続いているとの事だった。然し、マラリアとか髄膜炎ではなさそうで、脱水を是正すれば何とかなると思えた。マリーンも同じ意見だった。早速準備、栄光のアンコール小児病院「初の点滴」は聖陵会の日野直子とその任にあたった。然し、彼女の点滴は入らなかった。肝心な所では失敗する奴だ。

カンボジアの看護師は誰も尻込みした。そこで、以前から目をつけていたカンボジアの助手のおばさんにやってもらった。この事は、聖陵会としては甚だ残念な事である。その助手は元医者か又は優秀な看護師だったのではないかと思っていた。点滴もフランス語も英語も上手で、患者に対するポイントも正確だった。多分、元ポルポト軍に居たため、正体を隠しているのだろう。この頃はそんな人が多勢いた。無事に点滴が終わった頃、意識が回復した。ところが、院長のアドリー(オランダ人の女医さん)が「点滴はこの病院ではやらない」と言い出して、大いにもめた。マリーンはおとなしい人で口は出さなかったので、自分と院長とで一時間以上英語での議論となった。思えばあの頃は俺も英語がうまかったのだろう。夜、院長が自分達カンボジアスタッフに人種差別をして

医療法人 聖陵会 理事長 岩里 正生

いると不満を持つ職員とマリーンを連れて居酒屋に行った。裸電球一個だけ、周りはヤモリだらけの暗い飲み屋で、皆でわあわあアドリーの悪口を言って、酒を飲み、飯を食った。シエムリアップ川沿いの路を、肩を組んで歩いた。カンボジア語、英語、日本語が飛び交った夜、思えばあの時からウッディーや古山さんも一緒に居たなあ。そんな事がすごく懐かしく思い出された。今、アンコール小児病院は近代設備をもつ立派な病院になったが、あの頃は本当にどうなるのだろうとスタッフも自分も不安だった。次の日、井津さんや池友会トップの蒲池先生に文句を言ったが、彼等の答えは「アドリーを追い出すなら岩里先生がここに残るしかないよ」と言われた。聖陵会の事を考えると、それは出来ない事だった。

今度の旅で梶原美穂も石田こずえもいい体験をしたと思う。そして長い戦争と悲劇の歴史を経たベトナム、カンボジアの人々が今何を望んでいるのか、少しばかり分かるかも知れない。

自分はその時代がひたすら懐かしく、アドリーは今どこに行ったのか、マリーンはアメリカに帰って何をしているのか、首になったオランダのやぶ医者ヨンヤンはカンボジアに未だいるだろうかと考えながらシエムリアップの裏通りを一人歩いた。





## カンボジア・アンコール小児病院 10 周年記念式典に参加して

2009年2月22日(日)、カンボジア・シェムリアップ市にあるアンコール小児病院は1999年の創立から10周年を迎え、その記念式典に参加する為、岩里正生聖陵会理事長、聖陵岩里病院 看護師の梶原美保さんと私 聖陵ストリーム 介護福祉士の石田の3名が現地へ赴きました。

私(石田)にとって初めての現地への訪問で、アンコール小児病院スタッフの皆さんが、どんな風に医療に携わっているのかを直に感じてみたいと思っていました。

あいにく式典当日は休診日だった為、患者さんとのやりとりを直接みる事は殆ど出来ませんでした。式典でのお話の中で、この病院が国からその医療の質の高さを認められ、シェムリアップ市内の他の郡立病院に、小児科のサテライト病棟を加える事業を任せられるまでに発展している事や、今後はシェムリアップ市内だけでなく、もっと遠方のあらゆる地域に、アンコール小児病院の質の高い医療を提供できる拠点を増やしていきたいという目標を持ち、実現にむける強い意志を感じ取る事ができました。

また、式典の中では10年間勤務したスタッフに感謝状を渡す場面もあり、そのスタッフの方々の表情はとても嬉しそうで、誇らしげでもありました。

私達は日本で同じような職業に携わりながら、内戦の傷跡で苦しむカンボジアの皆さんの為にと、こうしてアンコール小児病院の支援を続けていますが、その現地で頑張っているスタッフの方々の前向きで懸命な姿勢を目の当たりにして、私達自身の仕事に対する姿勢を見直させられるような感慨を受けました。そして、この支援のやり甲斐と、今後も継続していく事の大切さを、改めて認識する事ができました。

今回、現地に行き、このような貴重な体験をさせていただいた事、その機会を与えていただいた事を、このアンコール小児病院の支援に関わる全ての皆様へ、感謝申し上げます。

NPO 法人「The tree of minority tribes」

理事長 石田こすえ



### ストリームデイケア 100 歳バースデー

3月3日に100歳を迎えたデイケア利用者、財津カルミさんの百寿祝いを、3月7日(土)の利用日に、ストリームデイケアにて行いました。

デイケアで100歳を越えるのは今回が初めての事で、みんなでお祝いをしたいと思い、当日はなるべく職員も休みを入れないようにして、午前中からバースデーケーキ作りや、盛り上げるための準備を行い、午後1時40分頃よりスタートしました。

財津さんの紹介から始まり、ハッピーバースデーの歌、ケーキのローソクを吹き消す時にはなかなか消えず、職員の子供さ



んが加勢したり、百寿お祝い品の贈呈やプチくす玉をわったり、職員からの歌のプレゼントがあったりして、いつもより盛大に、そして賑やかにお祝いを致しました。

同日利用者の男性の方から「がんばらないよ～」と大きな声援が飛んでおりました。

最後の挨拶にて、涙ぐみながら「有難うございました」と感謝の意を述べておられました。

“こちらこそ”という気持ちでいっぱいでした。

楽しい、うれしい、そんな気持ちでいっぱいのイベントが無事終了できて本当によかったと思います。

百寿のお祝い、本当におめでとうございました。これからも豊饒と、ストリームデイケアへ通われて下さい。

心よりお待ちしております。

ストリームデイケア 井上 旭

今年の GONGOVA の活動舞台も去年と同じカレン族の住むバンフェイクオボン村だ。タイの北部にあるメーホンソンという町から車で約 2 時間、ミャンマーとの国境に近い山岳地帯である。

今回の活動は 3 年前に建てた学校の増築工事である。数年前から続けてきた学習院大学とタイのメーファアラン大学の学生の共同作業による給水システムの建設が功を奏し、村の人口が増えたためだ。人口がほぼ倍増したということだ。学校の横には幼稚園まで建設されていた。

私が隣村までひとりで歩いていると、後ろからバイクに乗った若者がやってきて、どこまで行くのだと英語で聞いてきた。隣村の学校まで行くと答えると、送っていくから後ろに乗れという。こんなでこぼこ道をバイクの後ろに乗っていくのは、少々怖い気がしたが、せっかくの親切を無にしては悪いと思って、ジェットコースターに乗る気で乗せてもらうことにした。こんなところで英語を話す若者がいるとは珍しいと思ったら、彼は学校の先生だった。送ってもらった後、夕方また会おうと言って別れたが、会えずじまいだった。

今回は学生に経験者が多かったことと、期間が例年より短いこともあって、健康上の問題はま

## 聖陵岩里病院 副理事長 小南 達矢

たくとっていい程なかった。唯一、体調を崩されていた川嶋先生が心配なだけであった。しかし、実際お会いしてみると思ったより元気で、体調も日に日に改善してきているということで、私にとっても一安心であった。

今年の GONGOVA で例年とひとつ違う点は、毎年あった診療所用のテントがもう使えなくなったことだ。そのため、今年の診療所は我々のキャンプのために土地を提供してくれている村人の家の一間を借りて開くことになった。寝泊りもそこでする訳だが、夜寝ていると、壁ひとつへだてて、家族の会話が聞こえてくる。もちろんカレン語で何を言っているのか分からないが、なんだか居候しているようで、なんともばつが悪い。

明日の朝は又早くからやかましい鶏の鳴き声で起こされるのだろうと思いつつ眠りに就く。



3 年前に建てられた学校で授業を受けるカレン族の子供たち

## 第 10 回天領日田ひなまつり健康マラソン大会

3 月 15 日（日）、ひなまつり健康マラソンに参加してきました。当日朝はとても寒かったのですが、天気は快晴でスタートの 10:30 頃にはけっこう暖かくなっていました。



開会式には佐藤市長をはじめ、福岡にあるひた生活領事館の山本華世さんも挨拶をされていました。スタートの時間が近づく

につれ、少しずつ緊張し、完走できるかなあ〜という不安と、走りきってやるという意気込みが入り混じった気持ちでいざスタート！

最初からすぐ息があがり、途中歩いたり走ったりを続けながら、2 箇所の折り返し地点を過ぎ、無事ハーフコース（21km）を完走する事ができました。記録は 2:39:40 でした。

正直言いましてかなりきつかったです。（ちっとは痩せたかな？）

一緒に走ったみなさん、大変お疲れ様でした。また、応援に来てくださった方々、有難うございました。

ストリームメイクア 井上 旭

## 聖陵ストリームイベントランチ を開催しました

今年も施設のお食事を委託している富士産業さんと協力して、通所・入所者の皆さんが喜んでくださる内容のイベントランチを計画しました。

まず2月はデイサービス、デイケアにて魚の解体ショーを行ないました。魚は鮮魚店より丸々と太った鯛とカンパチを丸ごと仕入れて来て、板前さんは臼杵から駆けつけ、利用者の目の前で見事な包丁裁きを披露しました。刺身をひいているところを見て、十分に目で楽しんだ後は、しっかりと食べて楽しんでもらいま



した。新鮮であることに加え、解体ショーというパフォーマンスを目の前で見たことで、いつになく美味しく



感じたようでした。

また、3月には入所者と一緒に団子汁会を行ないました。2階・3階各食堂にコンロを設置し、大きな鍋を置いて、ぐつぐつと煮え立てば食欲をそそるいい匂いがフロア一面立ち込め、お腹も空いてきます。数名の入所者に団子を捏ねて延ばしてもらい、鍋にどんどん入れていきました。それぞれに思いがあり、団子の形や大きさ、厚みもまちまちでしたが、鍋に入ればそれぞれに味噌がなじみ、美味しそうに煮立った熱々の団子汁をみんなで注ぎ分けて食べました。フーフーしながら一生懸命食べていたのが印象的でした。

聖陵ストリーム管理栄養士 吉原久美

## 健康教室を開催しました

3月14日(土)花月委員会にて、健康教室を開催しました。

前日のうららかな天気とは一転し午前中には雪も舞う日の開催でした。

そのような中、準備した椅子はすべて埋まり、花月クリニックの診察室は、満員御礼でした。

聖陵会の紹介と、先日岩里理事長と一緒にカンボジアを訪問した梶原美保看護師のボランティアについての紹介、報告がまず行われました。

後援のテーマは『高血圧』です。高齢者が一番興味深い内容です。

井原院長の高血圧の説明は分かりやすく、〈夫を早死にさせる十ヶ条〉には特に興味をもたれていました。おいしいものをたくさん食べて、肥満になってゴロゴロ、タバコを吸わせ、酒を飲ませて……などなど、心当たりの男性は“ハッ！”としたかもしれません。

栄養士の河津さんは、スライドのアクシデントなどまるでなかったかのように、主婦に向けた塩分の

控え方を教えてくださいました。味噌汁を1度に減塩でなく徐々に減していく。少しずつからだ慣れてくるので成功しやすいとの事。『しょうゆをかけるとき、2回3回と回しかけるのを、1回、1回半にしてみてください』私の一番印象的な所で、参加者も手を回している人がいました。

最後に、作業療法士の西見さんによる肩こり体操、とってもハードでフーフー言っていたのは私だけでしょうか??

花月の患者さんの中に1人、病院でポスターを見て参加したと、日高町の患者さんがいました。有り難かったです。沢山参加して下さった清水町老人会の皆様、ありがとうございました。アーチトンネルとまではいきませんが、帰りは花道を通っていただきお礼の挨拶をそれぞれにしながら、見送りました。皆さんより『今度は4月4日のグラウンドゴルフやねー』『楽しみね』と声をかけていただきました。花月委員会が地域の方々に少しずつ浸透してきたかなと感じています。

花月推進委員会 中原清香



## 日田漫歩<sup>29</sup>

### 「日に日に新た」

梶原義則



新人の季節。医療法人聖陵会も、新たな息吹と活力がみなぎる。半面、新人は緊張と驚きの連続で、慣れないうちはポカも多いのでは。

筆者が接した新人記者もさまざま。福岡県警サブキャップだった30年前、東大卒がやってきた。当然、サツ回り。警察の懐に飛び込んで外を見ると、社会の裏側がよく見える。「秘密の壁」を打ち破り、取材手法をつかむ。さて、新人に「明日はあいさつ回りだ」。翌朝、服装を見て仰天。茶系統の格子縞のシャツに青のジーパン、赤っぽい運動靴。怒声を発し、出直しを命じた。相手は警視や警視正のオッサンたち。最初だけでも、背広にネクタイが常識だろうが、唐変木め！

24年前、鹿児島支局のデスク時代。桜島が爆発し、直径2kmの灼熱の溶岩が2km離れた民家



の庭にめり込んだ。3カ月の新人を現場に出した。夕方帰社し、暗室で現像。ところが、出てきた新人の顔が真っ青。カラーフィルムで撮影し、白黒用の液で現像してしまった。社会面ネタの大失敗。半泣きで再び飛び出していった。

41年前の夏、新人4カ月の筆者。信州の上高地臨時支局にいた。上高地や北アルプスの賑わい、話題、遭難取材が目的。そこへ、待機命令があった。観光バス2台が集中豪雨と土砂崩れのため飛騨川(岐阜県)にたたき込まれた。ラジオにかじりつく。犠牲者は104人。武者ぶるいし、緊張しまくり。1時間後「名古屋が対応する。待機解除」。正直、ホッとした。一方で、初めての大災害取材のチャンスを逃し、落胆した。

医療、介護現場に携わる新人に、筆者が好きな言葉を贈ろう。「日に日に新たにしてまた日に新たなり」(中国の思想書・大学)。苦しく、悲しいことがあっても必ず明日が来る、新たな希望を持って努力せよ、の意である。

経歴：毎日新聞記者。鹿児島支局長、経済部長、編集委員を経て2000年4月、日田赴任。

## 拾薪寮に新倉庫が届きました！

拾薪寮が新しくなってからは無かった倉庫を、日田のグランドゴルフ協会の方々からの寄付で贈呈して下さる事になり、4月8日(水)に、その贈呈式がありました。

これからは、倉庫のそばに畑を作る予定なので、その農機具の置場としても活用するそうです。



### 編集後記

広報誌 宇宙がリニューアルしました。年4回発行の季刊誌とすることで、より一層充実した内容でお届けできるよう担当一同取り組んでまいります。



## 医療法人 聖陵会

■ホームページ <http://www.seiryu.or.jp/index.html>  
■E-mail [seiryu@seiryu.or.jp](mailto:seiryu@seiryu.or.jp)

救急指定 大分県日田市銭淵町16-18  
TEL 0973-22-1600  
FAX 0973-22-1603

介護老人保健施設 大分県日田市中釣町485-3  
聖陵ストリーム TEL 0973-26-3111  
FAX 0973-26-3114

居宅介護サービスセンター TEL 0973-27-6687  
FAX 0973-23-6166

訪問介護サービスセンター TEL 0973-27-5345  
FAX 0973-26-3114

こども発達支援センター銀河 TEL 0973-26-3111  
FAX 0973-26-3114

大分県日田市清水町931-6  
聖陵花月クリニック TEL 0973-27-5050  
FAX 0973-22-1080

アンコール小児病院(カンボジア)